

石岡市議会 議長賞

「社会を明るくする運動」

石岡小学校 六年 飯塚 小百合（い いづか さゆり）

私は「社会を明るくする運動」と言われても、初めは正直よく分かりませんでした。

しかし調べてみると「社会を明るくする運動」とは「すべての国民が、犯罪や非行の防止と、犯罪や非行をした人たちの再生について理解を深め、それぞれの立場に置いて力を合わせることで、犯罪や非行の無い、安全で明るい地域社会を築こうとする、全国的な運動である」ということが分かりました。

しかし実際は、初犯で捕まって出所しても「行く場所が無い」「仕事が見つからない」「学校や仕事を続ける事が難しい」

が現実のようで、再犯につながってしまいう大きな問題ということが分かり

ました。

いくら再犯を防止しようとしても、一度犯罪をおかしてしまうと、その人は毎日は生活ができなく、生きづらくなってしまうと思います。そうならないように、犯罪をおかしてしまっても周囲の人が温かい目で見守ってあげたり、優しい言葉をかけてあげると少しでも生きやすくなるのでは、と思いました。母にこの作文の話をしたら、母の友達の話をしてくれました。

その友達は、学校では他の友達と同じように明るく楽しくて、普通の同級生と同じだったそうです。

しかし、中学生の時に一度だけ、非行をおかしてしまったそうです。高校生になってからも、親に反発し、再び非行をおかしてしまったそうです。

大人になってから知ったそうですが、その友達は実は幼い頃から、親に厳しく育てられ、時には暴力も受けていたそうです。

「ぎゃくたい」が原因かは分かりませんが、その友達は大学進学をきっかけに、家を出て一人暮らしを始め、落ち着いたそうです。

その友達は言っていたそうです。「家を出て、自分の知らない土地で、新しい学校や、友達に出会って、本当の自分を取り戻せた」

母はその話を聞いて、人にはたくさん居場所が必要であると思ったそうです。

私には、自分の家、通っていた保育園、今通っている学童、祖父母、母の兄弟の家、たくさんの居場所がありました。

す。

そのたくさんの居場所のおかげで、頼れる場所や、逃げる場所があるので、嫌なことがあっても忘れることができたり、毎日元気に過ごせているのだと思いました。

母の話を聞いて、犯罪や非行をおかしてしまった人にも、たくさんの『居場所』があれば、再犯をおかすことも少なくなるような気がしました。

犯罪や非行をおかしてしまった人を、温かい目で見守ってあげたり、優しい言葉をかけてあげるのは、難しいことだと思います。

でも『やり直せる』ということを、すべての人が信じ、協力できると、社会は明るくなると思いました。

